



# 東海支部報

日本山岳会東海支部

No. 145 April. 1. 2016

発行 公益社団法人  
日本山岳会東海支部

〒460-0014 名古屋市中区富士見町8-8 OMCLビル

電話：052-332-8363 FAX：052-322-7924

郵便口座 00800-5-13749 「日本山岳会東海支部」

銀行口座 三菱東京UFJ銀行 覚王山支店

普通1222073 「日本山岳会東海支部」

編集 星 一男

印刷 (株) 浅井隆文社



第15回東海岳人写真展より  
撮影 樋口悦子

左上：ガガイモ 右上：クロクロイ  
左下：ヤクシソウ 右下：アサギマダラ

## 目次

○平成28年新年懇親会報告	毛利邦男	2	○Alpine express in the Canadian Rockies	山田利行	11
○雪山ブラインド登山報告 六つ星山の会との交流登山	前田隆久	3	○東海支部の蔵書からの一冊⑦	水野和博	13
○第19回森の勉強会報告	南川陸夫	4	○同好会コーナー	山中光子 村中征也 山田明美	14
○谷口けいを偲ぶ会	尾上 昇	6	○委員会報告 青年部／山行 登山教室	鈴木慎吾 天野倣明	15
○東海岳人列伝(2)	西山秀夫	7	○会務報告	毛利邦男	18
○リレーエッセイ⑥	尾上 昇	8	○ルーム日誌・会員異動	酒井 広	22
○支部友コーナー	酒井 広	10	○INFORMATION		23
			○編集後記	星 一男	

# 平成28年新年懇親会報告

総務委員長 毛利邦男

恒例の新年懇親会が1月16日(土)17時から東海支部ルーム隣の高砂殿本店で開催された。



小川支部長 挨拶

最初に小川支部長から以下の年頭のあいさつがあった。

「昨年は内外ともに悲慘な出来事が相次ぎました。ネパールではマグニチュード7.8の地震があり、8,500人を超える犠牲者が出ました。東海支部関係では五竜遠見尾根での雪崩による遭難と荒島岳における滑落事故により貴重な人材を失いました。こうした遭難事故を防ぐため昨年12月「技術向上委員会」を発足させました。また、12月には東海支部にもなじみが深い世界的女性クライマー谷口けいさんが北海道黒岳で滑落事故により死亡しました。会員の皆様に於かれましてはくれぐれも安全登山を心がけて頂きますようお願い申し上げます」。

続いて、沖 允人編集長より日本山岳会110周年記念の出版事業として東海支部の編集により刊行された『インド・ヒマラヤ』の出版に至る経緯と本の内容の案内があった。

そのあと、下記2隊の壮行会が行われた。

## ①カナダワディントン山群登山隊

(未踏の岩壁の登攀と縦走、5月初旬～6月初旬)

隊の構成—山田利行隊長他2名

菊池 徳隊員より映像を使って計画の説明を受けた。当登山隊には東海支部から‘チャレンジ基金’からの助成金が贈呈された。

## ②アコンカグア登山隊

(オルコネス谷経由北西ノーマルルート)

隊の構成—小澤佑介隊長他3名の学生

当登山隊には東海支部から‘激励金’として金一封が贈呈された。

## 講演会

立山カルデラ砂防博物館課長の飯田 肇氏をお招きし「立山・劔岳における現存氷河ならびに他の現存氷河の可能性」と題した講演をして頂いた。はじめに尾上常任評議員による飯田 肇氏のプロフィール紹介を受け、氷河の定義からはじまり立山・劔岳において氷河が存在することを証明するに至るまでの経緯・研究・調査につき詳しく解説をして頂いた。同時に立山の他にも氷河が現存する可能性についての調査活動の進行状況についても詳しく解説して頂いた。



飯田 肇氏の講演

## 懇親会

講演会終了後は、会場を変えて懇親会に移った。藤寄青年部部長の発声による乾杯の後、飯田 肇氏も交え和気あいあいの雰囲気の中、会場は大いに盛り上がった。また、九州在住の石原國利支部員から例年通り清酒黒田武士の差し入れがあった。



青年部の諸君

# 雪山ブラインド登山報告

## 六つ星山の会との交流登山～富士見台山行～

ボランティア委員会委員長 前田隆久

2月6日(土)・7日(日)の1泊2日で六つ星山の会と合同で雪山ブラインド登山を実施。東海支部からも視覚障がい者2名を含む10名で参加した。行き先は富士見台高原(1739m)、ヘブンスそのはら展望台からの往復コース。

一日目は、昼神温泉・阿智の里「ひるがみ」に宿泊、東京から合流した六つ星山の会のメンバー24名、サポートで参加したJAC YOUTH CLUBのメンバー5名と情報交換を目的として懇親会を行った。六つ星山の会は、視覚障がい者支援登山では34年の伝統を誇る先駆者的な存在で、高田馬場の日本点字図書館を拠点として活動している団体。現在の会員数は230名(うち視覚障がい者78名)。同種の団体が、千葉、新潟、富山、大阪、京都、長野、高知などにあり、毎年全国交流登山大会を開催し、本年は3月4～6日に第15回大会を開催している。

二日目の山行は、本来なら2月の厳冬期でもあり、真っ白な雪の中をカンジキ、スノーシューで歩くはずだったが、今年は暖冬で、登山道に地肌が出ている所もあり、神坂小屋から山頂まで15分ほどの行程で軽アイゼンをつけたのみだった。気温は-1℃～-11℃、微風。メンバー全員普通の登山パーティと変わらない歩調で、約6時間の山行を元気に楽しんだ。六つ星山の会は、24名(内、視覚障がい者8名)という多勢にもかかわらず、手慣れたすばらしい運営、行動であった。雪が少ないので本



雪山ブラインド登山のみなさん

来の目的が達成できず残念だったが、天気に恵まれ、見晴らしがすばらしい山行となった。視覚障がい者支援登山では歴史のある「六つ星山の会」と合同で開催でき、学ぶところも多かった。また、同じような思いで活動されている皆さんと懇親が持てたのも良かった。このような機会を今後も考えていきたい。

そして、タイミングとしても今年4月1日から障害者差別解消法が施行される。障害者差別解消法は、「障害の有無によって分け隔てられることなく相互に人格と個性を尊重しながら共生する社会の実現に向け、障害を理由とする差別解消を推進する」のが法の精神で、差別のない社会を目指していくものだが、ボランティア委員会としては、ブラインド登山、知的発達障がい者支援登山を通して、実際に障がいのある方と接しサポートする事で、障がい者への理解が深まり差別解消にもつながっていくと考えている。そういう意味でも多くの方にボランティア委員会の事業に参加していただきたい。

また、視覚障がい者の声として「機関誌などの情報提供は、支部も本部もまだ活字印刷でしかなく、視覚障がい者が直接それらに接しられるためには、音訳版やインターネットの活用を望みたい」という声もある、今回の法整備をきっかけに早急に考えていくべき課題だと思う。



富士見台高原にて

## 第19回森の勉強会 報告

自然保護委員会委員長 南川陸夫

日本山岳会の京都・滋賀支部、関西支部、東海支部の3支部自然保護委員会共催の「森の勉強会」である。第19回は京都・滋賀支部主管により「嵐山の景観はいかにして守られているか」の講演と国有林嵐山の現状を視察登山することをテーマに2015年10月24日(土)～25日(日)に京都市内で開催された。

参加者はJAC本部2名、関西支部7名、京都・滋賀支部11名、東海支部5名その他1名で合計26名であった。

**第1日目**(10月24日)晴 15時～

初日は座学で、京都市右京区花園木辻北町「花園会館」(臨濟宗大本山妙心寺内)で開催された。

講演の趣旨「嵐山の景観はいかにして守られているか」と題して京都府立大学の三好岩生先生がパワーポイントを使っての講義で、京都を代表する景勝地、渡月橋の南西に広がる嵐山国有林の森林景観紹介から始まり、嵐山の地形や地質を踏まえて森林の現状や森の歴史と変化を説明された。

### ●嵐山国有林の森の概要

保安制限：風致保安林・歴史的風致特別保護法・土砂流失防備保安林等7つの規制。

1. ①面積：52.03ha②高度：382m③山の斜面の傾斜で31度を超える斜面が約70%。
2. 地質は約1億7600万年前から1億4000万年前に海溝で複雑に変形した地層(付加体)であり、泥質岩・砂岩・チャート等の堆積岩からなる剥離型岩石が多いとのこと。

### 3. 嵐山の森の歴史

5世紀 ～秦一族が付近に移住し、森林資源利用開始。

1200年代 ～サクラの植栽

1300年代 ～天龍寺による管理  
天龍寺による植栽・管理  
地元住民による森の利用

1871年(明治4年)官有林に編入(国有林化)

1931年 「嵐山風致林施設計画」

1950年代 近代的治山事業

管理不足によるマツ、サクラの衰退

1960年代 ～マツ枯れ被害拡大

1980年 「土砂流出保護保安林」に指定

1990年 ～択伐に伐開を開始

シカ等による被害の深刻化

2000年代～ナラ枯れ被害の拡大

### ●嵐山の森林景観はなぜ美しく見えるのか

- ①距離感：木の1本1本が判別でき、且つ全体が見える距離(200m～400m)に主要な視点場がある。
- ②角度：主な視点場からの仰角が山の風景を見るのに最も適した角度なる。
- ③地形：固い岩石でできた山が桂川が蛇行する外側にある。足元を削られ続けた結果、切り立った屏風のような地形になり、見るものに迫ってくるような景観になる。
- ④構成要素：森(山)、川、橋、建物などの組み合わせは、植生の季節による色合いの移り変わりやアクセントが変わる。などの説明があったが、この風光明媚な名勝を訪れる方々はどう感じられるのだろうか。



嵐山国有林

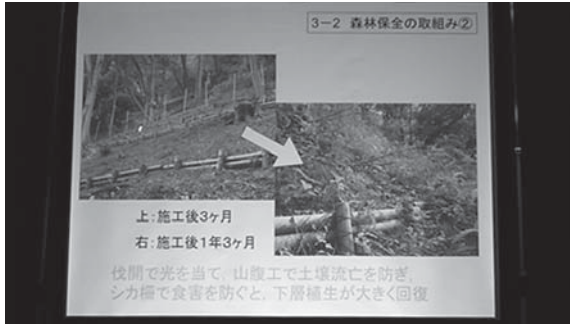
### ●嵐山の治山事業と森林保全の取組

嵐山は地形が急峻で昭和の中期までは大雨のたびに土砂崩れや土石流が発生したが、治山堰堤や擁壁工で土砂崩れや土石流災害は激減した。2014年8月10日に台風11号でこの地方は桂川上流の増水で大被害になったが嵐山では特に異常はなかった。

嵐山はマツ枯れやナラ枯れに加え、シカの食害、さらに地形は急峻などの原因とする表土の流失の問題がある。表土が流出すると若い木の育成が悪くなり、それらがさらに表土の流出を招くなど悪循環に繋がっているとのこと。こうした事態に対処するために、臨床に光を当てる受光伐や丸太の設置をしてさら

にシカの防護柵を設置しているとの紹介があった。

受光伐や丸太施工、シカの防護柵を設置された場所には林床に草木が復元された。



施工時と施工後1年3ヶ月後の写真

今後の活動としてどこで何を育てるか。景観調査をして山腹緑化計画にも基づきマツ、サクラ、カエデ等の植栽と落石土砂流出防止施工、獣害防止柵等の対策をして嵐山の景観保全に繋げたいと纏められた。

座学終了後は当会場「お寺のホテル花園会館」にて懇親会・宿泊。

## 第2日目(10月25日) 晴

好天に恵まれて参加者一同は嵐山に向けて妙心寺の境内を南総門から北総門に歩み、口

一カルな電車「嵐電」の妙心寺駅から乗車し嵐山駅着。既に周辺は観光客が散策している。桂川の渡月橋のたもとで、対岸の嵐山を眺望。

講師の三好先生と嵐山国有林入口で合流し、ここから案内をしていただく。特別許可を得ての入山である。入口の案内板の説明後、国有林歩道を歩くが登山道として整備されてなく、急峻な地形にザレた表土のため非常に歩き難く危険な箇所があった。蔵王権現堂にて裸地化した表土、落石防止の金網が設置された現地の実状が確認できた。

頂上の嵐山(382m)からの眺望は、眼下に京都洛北、洛中の町並みの彼方東北方向に比叡の山並みが眺められた。

頂上よりの下山路は裸地化したザレた表土に急峻な地形であり、慎重に下る。

無事嵐山の観察山行を終えて、改めて嵐山の外観と内観の現実を肌で感じる事ができた。

森に人が入らず、手入れされない現実をそのままにすれば嵐山の景観は保全できないだろう。人と森が関与した時代のこの森の景観を、今後どの様に関与していくのかという問題を問われる事を改めて知らされた勉強会であった。

### 東海支部俳壇

西山秀夫

来年も登山だスキーだ日記買ふ

自然保護委員会の忘年会にて

懐かしき顔が嬉しき年忘れ

郡上の山里へ

浅春や風花の舞ふ山の里

如月のはやも雪消のスキー場

母袋烏帽子岳

春北風強し尾根路は雪硬し

春日の頂上の雪に座す

山頂や飛驒一円は山霞

スキー場内は山菜取り禁止

露の蔓な採りそと言ふ山の主

林道歩きで汚れた登山靴を

春の泥沢にて洗ふ登山靴

山蕩児仙酔

冬の鈴鹿を歩く

アイゼンの雪囁む音の

小気味良さ

冬枯れに鹿食み痕の心悲し

稜線の北風烈しき頬を打ち

香港に遊ぶ(自由律)

汗拭うランタオの頂 爽涼

亜熱帯の香港でも、第二の高峰  
ランタオピーク(九三四巴)の頂

ともなれば、汗した体に吹く風  
が心地良い。

見霄かす 浜辺の遠き

シャープ峰

海拔0mから眺めるシャープピーク、  
標高は、四六八mと低い  
が、ピラミダ的な頂稜部が特徴  
的である。

天星のキララの波頭

思慕頻る

天星(香港島と九龍を結ぶフェリー  
ポート)に乗る。百万ドルの  
夜景を写す波間を見つめている  
と、君への思いが一層募ること  
よ。

## 谷口けいさんを偲ぶ会

常任評議員 尾上 昇

去る3月13日、昨年の12月21日、北海道大雪山系黒岳で滑落死した谷口けいさんの偲ぶ会が、東京の青山葬儀所で執り行われた。谷口けいさんというと、私達には、女性初のピオレ・ドール賞の受賞者とか、史上最強の女性クライマーというイメージが先行する。確かにその行動と実績は、男性クライマーをも凌ぐ世界に通用するクライマーと位置付けられよう。こうした観点から、彼女の不慮の死は、日本の登山界の至宝を失ったと言い表せよう。

ところが、彼女は、「クライマー」と呼ばれることをあまり好まなかったという。自らを「旅する人」「山の好きな人」と著していた。いわば「エクスプローラー」である。彼女の日常は、クライミングに明け暮れていたと思われがちであるが、意外にもバイクや自転車を駆使して、長期間国内外を走りまわったり、アドベンチャーレースとって何週間も昼夜を問わず、荒野をひたすら目的地に向かって行動するタイムレースなどにも参加している。

また、子供達のアウトドア教育に興味を注いだり、野外活動を活用した人材組織開発に組していたりして、根っからのアウトドア一派といえよう。

偲ぶ会は、実行委員会代表(尾上)の御礼と挨拶からスタートし、前述の幅広い活動を共にしてきた仲間や職場の上司からお別れの辞が続く。誰もしが「けいちゃん」と呼び、その人懐っこさ、誰とでも親しみ、区別なく交わる彼女のやさしい人間性を褒め称えていた。



新年会にて 左 坂本 孝支部員 右 谷口けいさん



祭壇と谷口けいさん

最後にエベレスト登山を共にした野口 健君が、その時の様子をユーモアをまじえ語り締め括った。あの凄まじいまでの登攀への執念、そしてそれに伴う驚嘆に値する記録の数々、一体彼女のどこにそれを具現化させる因があるのか訝からざるを得ない。昨年の東海支部の新年会に講師としてお招きした。彼女に接した多くの支部員も、彼女のあの柔和な語り口から驚嘆に値する登攀の様子はとても想像できなかったと思う。

参列者は、500人を超えた。それぞれが万感の思いを込めて、カーネーションを御霊に捧げた。祭壇の中央には、微笑みをたたえた彼女の大きな顔写真と皇太子殿下から供された「小菊の花籠」が、参列者の目を引いた。

皇太子殿下とのご縁は、尾上が4年前に谷口けいさん他を同道して東宮御所を訪問、殿下の前でカメットの登山を御進講申し上げたことがきっかけ。以降もJACの年次晩餐会の席上で、殿下と親しく談笑する谷口さんの姿が見受けられた。

※ピオレ・ドール(金のピッケル)賞

フランス山岳会が、世界的に評価される優れた山岳登攀の記録を毎年顕彰する為に設けた表彰制度。

谷口けいさんは、平出和也君と登ったカメットの南東壁の初登攀が評価されたもの。更には、世界で初の女性受賞者でもある。

## 東海岳人列伝(2)

### ～彗星のように早世したアルピニスト 伊藤洋平～

編集委員会 西山秀夫

京都大医学部生の熱意から生まれた山岳雑誌『岳人』は昭和22年に伊藤洋平(1923～1985)らが創刊。三重県津市の生れ。父は米国で開業した医師で10歳で死別。帰国し津市で育つ。日本山岳会、京都学士山岳会会員。

#### 青春の山は経が峰と鈴鹿山脈

津市の中学生のころ、地元の経が峰に始めて登った。八高に入学するまでには鈴鹿の山は登り終えていたという。

#### 山岳雑誌『岳人』誕生秘話



『岳人』の創刊号

純粋な山岳雑誌を創り上げる構想について話した。「そりゃ面白い」とIは即座に賛成してくれた。中略。それでは、誌名は何とつけるか。『蒼氷』『岩壁』そんな尖鋭な感覚を表現する名前が私の脳裏に浮かんだが、やはり何となく幅に乏しい感じで、いずれも気がすすまない。そのときルックザックにもたれて腕ぐみをしていたIが「山岳の岳に人—『岳人』というのはどやろ」と呟いた。がくじん—なんとという力強い親しみのある響きであろう。このようなよい言葉が手近にあるのをどうして気づかなかったのか。「『岳人』そうだ、それに決めた」私は思わず車内で立上って叫んだ。「今にして思えば、『岳人』が今日あるのもあるいは当然かも知れない。そして私もIもただ花粉を運ぶ蝶の役目を果たしたに過ぎず、本当に『岳人』を生み出した

京都大学の医学生のある昭和22年に『岳人』を創刊した。『岳人』50号(昭和27年6月80円)に寄稿された伊藤洋平の『岳人』誕生秘話。「前略、私はふとIに、かねて夢に描いていた若い

登山家の手で、

のは、わが登山界の新しい息吹に他ならなかったということもしみじみと理解されるのである」と締めくくった。『岳人』は14号から名古屋の中部日本新聞社(現中日新聞、後に東京新聞に移管)に移った。

#### 愛知県と東海支部での活躍

昭和42(1967)年、副支部長には伊藤洋平が就任。昭和45(1970)年のマカルー遠征では遠征隊長になる。後に愛知県がん病院の初代ウイルス部長に就任。当時の癌の病因としてウイルスを研究した。

#### 62歳～早すぎる死

昭和60年7月26日62歳で死去。余りにも早い死。1945年で22歳であり、敗戦を待ちかねたようにダッシュ。『岳人』の創刊、アルピニストとして、岩登りの指導者として、医者として、詩人として、名うての紀行家、エッセイスト、翻訳家として、彗星のように尾を引きながら昭和の戦後を駆け抜けた男だった。誰もがそのマルチな才能を認める間もないままだった。初登頂や初登攀の記録こそないが、『回想のヒマラヤ』のうち、「アンナプルナへの旅」「嵐の中の遠征隊」「中世の都にて」は串田孫一編『忘れぬ山Ⅲ』(ちくま文庫)で今も読める。登山家、医師の視点から鎖国から解放されたネパールの実情をリアルに描く。読み継がれる名文とする所以である。

#### 登攀歴

1943年～48年穂高屏風岩正面岩壁の開拓  
1952年～53年冬季知床遠征、1953年京都大学ヒマラヤ遠征隊に参加、アンナプルナ第Ⅱ峰、第Ⅳ峰を試みる、第一次南極観測隊に参加、1970年東海支部マカルー遠征隊隊長

#### 著作

『岩登技術』(昭和24年、蘭書房)、『登山とキャンピング』(昭和29年、蘭書房)、『岩登り入門』、『回想のヒマラヤ』(昭和30年、山溪山岳新書)、『山と雪の青春』アルプス・ヒマラヤ・南極(昭和33年、三笠書房)、写真集『雪と光と夢』(昭和31年、白水社)、翻訳『K2・非情の山』(昭和31年、白水社)、多数

## マカルー遠征余聞 その2

常任評議員 尾上 昇

このマカルー遠征余聞、先号(No.144)が第1回であった。お陰様で好評である。というのは、先般の支部の新年会の席上で、あちこちから面白かった、とか、詳しい説明を求められたり、次号が楽しみなどのお声掛けを賜ったからである。

ご本人、いたくご満悦であることはいうまでもない。気をよくして当時を改めて思い起こしてみると、余聞に属する話が次々と思い出されてきた。先号は、登山許可取得にまつわる話であったが、今号は、カトマンズ編である。

### カトマンズ ドルをルピーに交換する

1970年2月14日マカルー本隊羽田を発つ。マカルー遠征の総経費は、およそ3,500万円であった。現在の貨幣価値に換算すると、何を基準に置くかは難しいが億を越すであろう。ちなみに東海支部の許可のお陰で、併せて実現した本部のエベレスト隊の総経費は、7,200万円であった。マカルー隊の2倍強である。

3,500万円の内、募金が2,500万円ほどで、そのほとんどを名古屋経済界をたのんだ。これは、国内渉外の担当の原 真さんと尾上の役目であった。原さんは、隊の全般に目を光らせなくてはならない立場であったので、実質は、尾上が窓口であった。尾上若干28才。こんな若造にこんな大役が回ってくるなどということは想定外で、果たして役目が果たし得るかの不安で一杯であった。

当然のことではあるが、目算は立てていた。何の根拠もなければ、暴挙というほかない。とはいっても当初は、募金活動が中々軌道に乗らず焦ったが、名古屋財界に顔の利く人の仲立ちでルートが確立し事が進んだ。どうやら出発間際には、ぎりぎり予定の金額を確保した。

ところがである。一応足りる計算であったが、本隊の1ヶ月前に先発隊としてカトマンズに飛んだ先発隊長の松浦さんから、必要な経費が膨らんだことを知らせてきた。それを入れると数百万円ほど足りない。本隊出発一週間前のことである。私の困惑は、ご想像いただけよう。最後は、誰かにお願ひして不足分を個人の借財と



5ルピー札

するしか手立てがないかと覚悟した。

すると数日後、松浦隊長から「ある分だけいい。但し、全額米ドルに換金して持ってこい」との電報が届いた。

数百万円足りない筈だったのに、ある分だけでいいとは、どういうことなのか訝った。いわれた通りにあるだけの通帳に残っている残金500万円ほどを掻き集めて、全額米ドルに換金して本隊と共にカトマンズに向かった。

カトマンズに着いた翌日、その500万円ほどの米ドルの入ったアタッシュケースを抱えて、松浦さんと一緒にタクシーに乗り込んだ。連れて行かれた先は、カトマンズ市内の繁華街の一角の見るからに古くて壊れそうな3階建ての木造の建物の前であった。ぎしぎしと鳴る怪しげな階段を上りその3階の一室に入った。木の窓があるのに閉ざされたままの薄暗い室の中には、2人のネパール人がイスに座っていた。ぎょろりとした鋭い目つきに、思わずアタッシュケースを抱え込む。

ここで何をしたかという、米ドルを闇でルピーに両替したのである。日本では、1米ドル360円の時代であった。日本もまだまだ経済的に今ほど余裕はなく、1人当たりの海外へ持ち出せる外貨に制限がかかっていた。1人500米ドルまでであった。とてもこれだけでは足りない。とはいいながら銀行に行けば、そんなに大金でなければ、比較的簡単にドルを手に入れることはできた。

ネパールの通貨は、ルピーである。現地での主な必要経費は、シェルパやポーターの人件費、滞在費、そしてキャラバンやBCで必要な現地



調達の手料品購入費が主である。これらは、全てルピー払いである。

ネパールでは、当時外貨が極端に不足していた。特に米ドルは、貴重で闇だと公正レートの2~3倍で取り引きされていた。松浦さんは、ここに目を付けたのである。たちまちにして、不足分は、米ドルを介してルピーに化け、賄われてしまった。このようにいとも簡単に闇ドルの売買が可能であったのは、闇ドル流通のシンジケートが確立されていたからなのであろう。

無事キャラバンに出発できたことは、いうまでもない。勿論違法行為である。従って全額闇では万一発覚した場合にやばいので、一部は銀行で公正レートでルピーに交換した。半世紀も前のことである。時効としてお許しを願おう。

余談であるが、キャラバン中の支払いは食糧調達費やポーターの人件費である。どうしても低額紙幣が必要となる。ほとんど1ルピー札か5ルピー札である。このために日本から持ち込んだジュラルミンのケースは、ルピー札で満杯となって重量は軽く20kgを超した。信用できる専属のポーターを一人を選び尾上が終始つききりであった。寝る時も尾上の隣はジュラルミンのケースである。お陰様で、シェルパから付いた渾名がマネーサーブである。サーブとは、ネパールで旦那とか主人を指す。さしずめ金庫番の旦那といったところである。

### カトマンズ ―エベレスト隊との交流会―

先号でも触れたが、東海支部の粘り強い交渉が功を奏して重い腰のネパール政府のヒマラヤ解禁の扉をこじ開けさせた。マカルー隊に許可が下ろされると、次々に他のヒマラヤ登山隊にも許可が下ろされた。東海支部の最大の功績は、結果としてヒマラヤ登山の解禁を1年早めたと申せよう。結果日本山岳会からは、1970年のプレモンスーン期に東海支部のマカルー隊と本部のエベレスト隊が同時に実現したのである。

両隊とも2月中旬相前後してカトマンズ入りした。カトマンズでの準備が終了しいよいよキャラバン出発である。その直前エベレスト隊からお招きのお誘いがあった。交流会をやろうというものである。本部からすれば、支部の登山隊も同じカトマンズに来ている以上知らん顔は、できないといったところであろう。東海支



部として、散々煮え湯を飲まされてきているので、楽しい筈がない。で行きたくもなかったが、と断るのも角が立つので、隊員全員渋々でかけることにした。場所は、アンナプルナホテルであった。エベレスト隊の滞在ホテルである。アンナプルナホテルは、この年に新築されたばかりのホテルでその豪華さは、カトマンズ市内でも異彩を放っていた。一方、我が方のホテルは、スノービューホテルといって、名前は恰好いいのだが古色蒼然のカビ臭い安ホテルである。財力の差を見せつけられたような思いで、余計気分が悪くなってきた。

交流会といってもお互い期待されて明日は戦地へ赴く身、浮かれて大騒ぎをする雰囲気ではなかった。それでも同じ日本山岳会の会員同志、親しい間柄の隊員も沢山いたことから、あちこちにテーブルを囲んで談笑の輪が広がった。

アルコールも入って交流会が和んできた頃、本部の司会者から歌でも歌おうかという呼び掛けがあった。では、手始めに東海支部からということになった。

マカルー隊、歌集片手に一列に並ぶ。K隊員のギター伴奏で歌が始まる。

「川面霧立ち 野辺に流れて  
連なる山は、おおジグリーの峰よ  
小舟静かに 水面をゆれて  
美わし山は おおジグリーの峰よ」

歌は、「ジグリー」で2部合唱である。音楽の素養の無い方に念の為に申し上げるが、2部合唱というのは、複数の人が声部の高音域と低音域に分かれて和声(ハーモニー)を奏でる合唱法である。合唱としては初歩的で通常の合唱団は、3部合唱や4部合唱である。それに対して同一旋律を複数人で歌うのを斉唱という。

次いでエベレスト隊である。がさごそ、ぼそぼそ中々歌が始まらない。その内何か歌らしきものが聞こえ出した。それも節廻しがバラバラである。

「寄れや寄ってこい 安曇の踊り  
田から、畑から、田から畑から、野山から  
野山から チョコサイコラホイ」

野暮な「安曇節」である。我が方は、「ジグリー」の2部合唱である。エベレスト隊は節廻しがバラバラの「安曇節」である。差は歴然。エベレスト隊からの、嘆息が伝わってくる。

もう一曲マカルー隊が歌った。「ラ・マルセイエーズ」である。いうまでもない。フランス国歌である。それも原語である。

もうエベレスト隊の出番はない。出番はないというより歌えないのである。恥かしくて。微妙に気まずい空気が漂う。その内交流会はお開きとなった。マカルー隊すっかり溜飲を下げて、意気揚々アンナプルナホテルを引き揚げた。

マカルー隊の歌は、この交流会を想定していたものではない。ヒマラヤ登山の準備、特に大遠征隊ともなると大騒動で、およそ半年間準備に没頭である。時には殺伐となる状況も生じてくる。そんな空気を和らげる目的で、マカルー隊では週に1回ほどの割合で、歌の指導者を招

いて歌を楽しんでいたのである。「ジグリー」も「ラ・マルセイエーズ」もその成果である。歌集は、好きな隊員が編纂して全員に配布してBCまで持参した。またトレーニングも走っているだけでは飽きるということで、日本拳法や剣道に興じたりしていた。

これには、後日談がある。両隊の登山が終わって30年も経ったぐらいの頃のことだった。エベレスト隊に参加した私の山岳部の大先輩のM氏と一杯やりながら、懐旧談で話が盛り上がっていた時のことである。

M氏の口から「そういえばあの時の交流会、マカルー隊が2部合唱をやったよね。正直驚いた。びっくりさせられたよ。我々は、安曇節なんかですっかり恥を掻かされた」という話が飛び出したのである。我が意を得たとは、まさにこの時のことである。それに気をよくして、その後他のエベレスト隊員にこのことを話したことがある。その男は、へえそんなことあったっけとの素っ気無い返事であった。音楽に興味のない輩や素養のない連中には、記憶の外の話なのであろう。M氏との会話の続きである。尾上のそれへの返答である。「覚えていらっしゃるのですか。それは光栄ですね。いやあ、東海支部では当たり前ですがね」と嘯いておいた。

今回は、キャラバンでの余聞である。乞うご期待。

## 支部友コーナー

### ◆支部友委員会山行計画(平成28年5月~8月分)

5月8日(日) 鈴鹿の御在所岳(1,212m)

☆☆ リーダー: 村瀬恭平 締切: 4月18日

5月10日(火) 豊橋の石巻山(358m)

☆ リーダー: 酒井 広 締切: 4月20日

5月16日(月) 鈴鹿の鎌ヶ岳(1,161m)

☆☆ リーダー: 伊藤康信 締切: 4月26日

5月21日(土) 鈴鹿の霊仙(1,094m)

☆☆ リーダー: 磯部 隆 締切: 5月1日

5月22日(日) 関ヶ原の伊吹山(1,377m)

☆ リーダー: 今津英一郎 締切: 5月2日

6月4日(土) 飛騨の靉糠山(1,744m)

☆☆ リーダー: 伊藤康信 締切: 5月15日

6月11日(土) 湖東の横山岳(1,131m)

☆☆ リーダー: 金谷正起 締切: 5月22日

6月18日(土) 鈴鹿の入道ヶ岳(906m)

☆☆ リーダー: 田中 進 締切: 5月29日

6月26日(日) 両白山地の銚子ヶ峰(1,810m)

☆☆ リーダー: 榊 将美 締切: 6月8日

<夏山>7月1日(金)~2日(土)

☆☆ 木曾の木曾駒ヶ岳(2,956m)

リーダー: 磯部 隆 締切: 6月11日

<夏山>7月3日(日)~6日(水)

☆☆ 北八ヶ岳の蓼科山(2,530m)他

リーダー: 伊藤康信 締切: 6月13日

<夏山>7月16日(土)~17日(日)

☆☆ 北アの奥丸山(2,439m)

リーダー: 今津英一郎 締切: 6月26日

<夏山>7月26日(火)~29日(金)  
☆☆ 北アの燕岳(2,763m)他  
リーダー: 榊 将美 締切: 7月10日

<夏山>8月5日(金)~7日(日)  
☆☆北アの立山三山縦走 雄山(3,003m)他  
リーダー: 村瀬恭平 締切: 7月16日

<夏山>8月26日(金)~28日(日)  
☆☆ 北アの後立山縦走  
赤沢岳(2,678m)、針の木岳(2,821m)他  
リーダー: 尾上 昇 締切: 8月6日

<夏山>9月2日(金)~3日(土)  
☆☆ 北アの焼岳(2,455m)  
リーダー: 金谷正起 締切: 8月13日

<夏山>9月9日(金)~10日(土)  
☆☆ 八ヶ岳の硫黄岳(2,760m)他  
リーダー: 磯部 隆 締切: 8月20日

**山行対象者** 支部友会員及び支部会員

**申込み方法**

- ・支部友会員は申込締切日までに、各山行リーダーが示す方法で申し込む。
- ・締切日 原則山行日 20 日前まで。(締切日を過ぎての参加空き情報はリーダーに直接問い合わせ下さい)
- ・支部員も参加は可能である。但し、支部友優先なので支部員は申し込み締切日の翌日以降に、各山行のリーダーへ問い合わせる。
- ・山行の募集人員を超えない範囲で、支部会員の参加申し込みを受け付ける。

**支部友会員数**

平成28年1月現在/55名

**次回支部友ミーティング  
開催内容のお知らせ**

- ① 第17回『中世古直子トークショー』  
日時: 4月13日(水)19:00~ 支部ルーム  
講師: 中世古直子氏、柴田清康氏
- ② 第18回『2016夏山へのお誘い』  
日時: 6月15日(水)19:00~ 支部ルーム  
講師: 支部友夏山リーダー

**リーダー連絡先**

村瀬 恭平 携帯: 090-4186-9876

メール: [hoshizakari@ezweb.ne.jp](mailto:hoshizakari@ezweb.ne.jp)

酒井 広 FAX: 0568-92-6137

メール: [hiroshi19540419@na.commufa.jp](mailto:hiroshi19540419@na.commufa.jp)

伊藤 康信 携帯: 090-2577-8137

メール: [kobitokaba@mediacat.ne.jp](mailto:kobitokaba@mediacat.ne.jp)

磯部 隆 携帯: 090-9180-7245

メール: [takass@yk.commufa.jp](mailto:takass@yk.commufa.jp)

今津 英一朗 携帯 090-2616-7549

メール: [imazu.eitirou@maroon.plala.or.jp](mailto:imazu.eitirou@maroon.plala.or.jp)

金谷 正起 携帯: 090-9931-3600

メール: [kanaya.masaki@rouge.plala.or.jp](mailto:kanaya.masaki@rouge.plala.or.jp)

田中 進 携帯: 090-9191-8666

メール: [t-susumu@peace.ocn.ne.jp](mailto:t-susumu@peace.ocn.ne.jp)

榊 将美 携帯: 090-7237-4410

メール: [m.sakaki@minds-consulting.jp](mailto:m.sakaki@minds-consulting.jp)

尾上 昇 FAX: 052-832-3878

メール: [onoe@onoec.co.jp](mailto:onoe@onoec.co.jp)

**個人山行も J A C 東海登山届けを!**



専用携帯電話(担当 野呂邦彦)

**080-2632-3776**

**Alpine express in the Canadian Rockies**

**~ワディントン登山 成功に向けて~**

青年部 山田利行

東海支部の皆様明けましておめでとうございます。1月の東海支部新年会では皆様から多大なご支援を頂きましたことこの場を借りてお礼申し上げます。

さて今回はカナディアンロッキーのクライミングではなく出発まで約2か月と迫ったワディントン登山隊の準備状況をお伝えしたい

と思います。今計画のメインテーマは「縦走」と「未踏のラインを登ること」です。そのうちで重きを置いているのが縦走になります。4kmに渡る急峻なスカイラインを縦走するといつても冒険的な登山です。それを成功させるためにメンバー全員が計画準備とトレーニングを重ねています。その要約を以下にま

とめました。

## 1. 縦走計画

1985年夏に初登攀されたワディントン山群の縦走ですが、私達の行く春の時期に登られた形跡はなく今回が初だと思われます。初登攀時は4泊5日でこの縦走を終えています。私達は最低1週間かかるだろうと見積もっています。簡単だと思われる氷河歩行を除くと13ものルートを登り下らなければいけません。その中には危険な懸垂下降も含まれています。どのルートを繋いで登っていくかは大体決まっていますがその詳細や明確な敗退ポイント、キャンプ候補地などは計画実行まで三人で議論を重ねること、現地ですべて目で見て判断するフレキシブルさも重要になると思います。

## 2. 装備

昨年の私が登ったマウントケフレンやマウントテンプレの時のようなツェルトを被るだけのライト&ファストスタイルとは異なり何日もかかる縦走には登攀具だけではなく幕営具も重要な要素となります。今回私達は縦走用にテントと一人一つずつ700g程度の軽シュラフを持って行くことと決めました。これに関しては東海支部のホープ菊池がとても良く動いてくれ、何日も稜線で耐えられる丈夫で軽いテント、軽量シュラフ、大型のジェットボイルなどをモンベルさんからサポートを頂くことができました。また、BC用の大型テントは東海支部からお借り致しました。登攀具に関してはハードなクライミング用に60mシングルロープを2本、70mダブルロープを2本用意し、ありったけのピトン、カム、スクリュウ、スノーバーそして万が一の時の替えのアイゼン、アックスなどをベースキャンプに持っていくつもりです。アラスカ同様セснаで全て運ぶことができるのでその点では楽です。ロープに関して初登攀を狙うようなハードクライミングでは60m以上登れないだろうということでシングルの60mをまた、縦走での懸垂下降に備えてダブルロープは長めの70mを持っていくことに決めました。そしてもう1本のシングルロープはバックアップです。

## 3. 食料

食料に関しては装備と同様にセснаでなんでも運ぶことができるので、とても楽です。アタック時の食料計画以外はある程度のメニューは考えていますが特に厳密には決めず現地



カナディアンロッキーでトレーニング中のヤマトシのスーパーへ行ってその時安い食材を日数と人数+ $\alpha$ で購入しようと考えています。いいクライミングを1か月継続的に行うためにBCにいる時は思いっきり食べるつもりです。

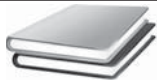
## 4. 緊急時の連絡態勢

今回の遠征には私の持っている「In Reach」というGPS機能をもついわば衛星電話のような機械を持っていきます。GPS機能を使用して山奥にいても対象の相手と連絡を取ることができます。ボタン一つでSOSが最寄りのレスキュー基地に送ることができたり、メールアドレスさえ登録しておけば誰とでもメールのやり取りができます。今回は主にこれでセсна会社とやり取りをして緊急時に備えるつもりです。

## 5. トレーニング

最後に今回の計画を成功させるのに最も重要なトレーニング。縦走をするにしても、ハードな初登攀をするにしてもトレーニングは欠かせません。日本にいる菊池とは一緒にトレーニングすることはできませんが、青年部のブログなどでとても真剣にトレーニングしている報告を見ているので問題ないでしょう。カナダにいる私と谷は時間が合えば一緒にクライミングや山へ行っています。11月終わってから2月までは毎週アイスクライミングやミックスクライミングに精を出していましたが、これから遠征までの2か月間は縦走に向けたトレーニングとしてカナディアンロッキーの高峰でアルパインクライミングを集中的に行っていくつもりです。それに加えて私の方では個人的に雪崩の講習に参加しました。今後はクレバスレスキューなどの氷河技術も再確認して臨んでいきたいと思っています。

次回の東海支部報ではこのワディントン登山のいい報告ができるようチーム一丸となって頑張ります。



## 東海支部の蔵書からの一冊⑦

図書委員 水野和博

### 『登山技術全書⑧』

#### 「雪山登山」

遠藤晴行著

雪山登山というジャンルは、日本独自の雪山登山技術である。日本の山は、夏と冬ではまったく違った様相を呈する。山域によっては上級者向きの厳しい雪山から、初級レベルでも登ることができる山まで、そのレベルの幅が広いのも日本ならではの特徴である。

また、夏山と違い必要な装備、技術、体力、危険度の高まり、登攀の技術が必要となる。本書は、縦走を中心に雪山登山一般の登山技術を解説している。

東海支部の今は、学生、青年部層は雪山を目指して登っている。中高年から山登りをはじめた層も山行委員会の企画する月例山行の雪の山に参加する傾向にある。こんなところからみても、ぜひ読んで貰いたいのがこの「登山技術全書」である。敢えて、第1章から第7章までを挙げてみる。

用具とウェアから登山の準備、食糧、技術、クライミング技術、雪山に泊まり、そして雪山登山の危険など、写真入で丁寧に解説している。

#### 第1章 用具とウェア

- ・雪山登山の装備・登山靴・ピッケル
- ・アイゼン・深雪を歩くための用具
- ・歩行者に必要な小物・登攀用具
- ・ウェア・テント・シュラフとマット
- ・雪山に必要なときの用具

#### 第2章 雪山登山の準備

- ・体力とトレーニング・情報を集める
- ・パートナーと計画・計画書と山岳保険
- ・雪山の天気

#### 第3章 雪山の食糧

- ・栄養とカロリー、雪山で便利な食品
- ・朝食と夕食のメニュー例、水の作り方
- ・行動食

#### 第4章 雪上技術

- ・ピッケルの持ち方、歩き方の基本
- ・滑落停止法、アイゼンワーク
- ・グリセードと尻セード
- ・ルートファイディング、難所の通過方法

#### 第5章 クライミング技術と確保技術

- ・雪山で使うロープの結び方
- ・確保技術の① スタッカート
- ・確保技術の② コンテニューアンス
- ・氷河上でのアンザイレンと救助法
- ・雪稜や雪庇の登攀

- ・アイスクライミング技術、岩壁登攀

#### 第6章 雪山に泊まる

- ・小屋に泊まる、幕営地の選び方
- ・テントの設営、テント内での生活
- ・雪洞と過ごす、ビバーク

#### 第7章 雪山登山の危険

- ・危険の種類、凍傷、低体温症
- ・救助と搬出方法、雪崩、春山の危険
- ・凍傷と雪棚の話

等、分かりやすく説明している。

「本を読まなくとも山は登れる」が、今言われている本離れを進めているようにも思える。支部報前号で《「東海支部の蔵書からの一冊」シリーズは、その目的が支部の保有する数多の書物から一冊ずつ紹介する事で一人でも多くの会員に読んでもらい、活用して貰う事にある》と、述べた。ここに『登山技術全書』を取上げたのは今回で4冊目となる。それは、全巻とおして統一されていて見やすく、豊富な写真とイラスト入りで分かりやすく、著者の実践に基づいた解説には説得力がある。総じて、能動的姿勢こそが自らの総合的なレベル・アップに繋がると言える。蔵書を活かしていただきたい。

2006年11月15日第1刷発行

B5版 145頁 山と溪谷社



## 同好会紹介コーナー

東海支部員が有意義なクラブライフを享受するための組織として活動する同好会の活動を紹介するコーナーです。

### 古道塩の道同好会

山中光子

飯田市を歩きはじめて、畑の中の木々に残った赤い柿と青い空、白い雪をかぶった南アルプスの山々を堪能しながら楽しく歩く塩の古道探しは、車では絶対味わえない風景と思う。塩の道を探しながら歩くだけでは無く、その土地の歴史や文化も尋ねている。

以前、稲武郷土史研究家の案内で馬宿の見学に行った時、先祖に木地師がいたと聞く。庭に菊の紋の墓があったが、その家系には人形浄瑠璃の太夫もおり、木地師の知識が少ない私達には、何故、菊の紋の墓があるのか、良くわからなかった。また阿智村浪合の歴史の話聞いたお宅にも、しゃもじの木型があり、先祖の中に木地師がいたのではと伺った事もあった。山の暮らしの中では、木地師の話は多い。塩を運ぶ道も暮らしに直結するから木地師と繋がる事が多くなる。必要にせまり数は少なくても、自宅用に作成したしゃもじもあるだろう。

会員の中で数名が日本木地師学会に入会し、そこで学ぶなか稲武の馬宿にあった墓は、木地師の物なのか問合せた。半年後、その墓は木地師の物に相違無しとの回答をもらった。発見により学会誌に発表するため、墓を見せてくれた稲武郷土史研究家の方からの情報をまとめ、墓は宝暦五年(1755)の物等と原稿まとめの時間を費やし、日本木地師学会誌に掲載された。

稲武でも木地師の墓が本物と確認された事が、馬宿を案内してくれ、疑問を持っていた郷土史研究家にも恩返しできた。また最近私達の参考になればと、稲武の木地師に関する資料を送付頂き、塩の古道にあたる稲武の木地師の研究が深まれば良いと思う。一般的には、木地師は小椋、大倉姓が代表的だが、尋ねたお宅は別の姓、木地師学会で苗字を調べたら、別の姓も色々ある事が判明したとの事。

塩の古道だけでなく、村に関わった事を知識として深めて行く。これからも塩の古道を探しながら、どんな新しい知識を得られるか楽しみです。

### スケッチクラブ

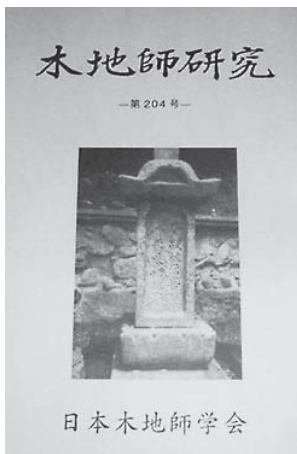
村中征也

大和は 国のまほろば たたなづく

青かき 山ごもれる 大和し 美し

《山辺の道》は、桜井市金屋から三輪山、竜王山の山麓を縫うように北に延び、天理市石上を経て奈良市へ至る起伏の多い、今に残る我が国最古の道です。

11月19日(木)は、曇天ながら穏やか、南端の大神(おおみわ)神社から巻向(まきむく)まで、万葉人の慕情を偲び、風物のスケッチを楽しみました。大神神社は本殿がなく、拝殿からご神体の三輪山を遥拝します。北西の大美和の社展望台に登り、香具・畝傍・耳成の大和三山の一望に感嘆しました。巻向の箸墓(はしはか)古墳は、卑弥呼の墓とも言われ、宮内庁所管で入域出来ないが、古墳の森と三輪山を望む池畔は、絶好のスケッチ・スポットでした。



墓の頭頂部分(半円の中)に菊花紋(右写真)が彫られているのが、木地師の墓の特徴



大神神社拝殿前

《第2回作品展》を、3月5日(土)～13日(日)吹上の「SPACEよ・あん」で開催、1年間の作品を20名の会員が持寄りました。レベルはまだまだながら、皆で講評し合い、参考にし合う和気藹々さが、クラブライフの素晴らしさです。

支部員や知人の多くの皆さんが足を運んで下さり、交友出来たことが何よりの喜びでした。有難うございました。

### 東海ASC(Tokai Alpine Ski Club)

山田明美

当同好会は気分の良い仲間とスキーを楽しむ会です。個性を主張しながら、深い信頼と暖かい寛容な精神を持って結ばれ、スキーで山を歩き、登り滑る事をテーマとして活動をしています。技量は問題でなく、気が合う事が大事です。

昨シーズン(2014～2015)は1月に白馬五竜の尾根で山スキー中、4月には登山中にと短期間で2名が尊い命を亡くすという辛く、悲しいシ

ーズンでした。会員も事の重大さを良く理解され、終息を見るまで会の行事をすべて中止し、雪解け水の渡渉、沢内の搜索、デブリ跡やヤブ内の丹念な搜索に汗を流した姿には、仲間を想う気持ちが強く出ており、仲間や仲間のいる事の素晴らしさを十分に認識させられたシーズンでした。

この事があって、今シーズン(2015～2016)は異常ともいえる温暖化による積雪不足と重なって意気上がりせず、出だし低調でしたが2月から下記のような会の行事を計画実施しました。2月のオサンババは雨で中止、ブンゲンは尾根に雪が無く、急遽オサンババに変更しブナ林のツリーランを楽しみました。

3月・・・北ア乗鞍岳

4月・・・野伏ヶ岳周辺(テント泊)

5月・・・白馬or立山周辺の予定

を計画していますので、山スキーに興味のある方は連絡して下さい。一緒に楽しみましょう！



搜索中の渡渉する西山秀夫支部員



大日ヶ岳の深雪を滑る山田明美支部員

## 委員会報告

### 【青年部】速報 アコンカグア登山 アコンカグア登山隊長 小澤佑介

昨日(3月11日)下山し、次の日にメンドーサまで戻ってきて、ネットワークに接続出来ました。3月8日(火)にアタックし、小澤、秋田の両名は、アコンカグア本峰6,962m登頂しました。目標であった全員登頂は、残念ながら果たせませんでした。何とか2名登頂しました。

これから4日間は、観光など自由行動の後、帰路も気を抜かずに気を付けて日本に帰りたと思います。詳細は次号で報告します。



アコンカグア本峰 (BCにて)

## 【山行委員会】

昨年度、山行委員会では会員の皆様からの要望の多かった山を中心にして下記のように 47 の山行を計画、実施しました。リーダーの皆様のご尽力により全員が自立して参加できるような山行に心がけました。皆様のご協力で一年間大きな事故もなく無事終了したことに感謝申し上げます。本年度も魅力ある山行を実施していきたいと思っています。

### 平成 27 年度 支部山行実施状況

平成 28 年 3 月 5 日現在

月	実施日	山行名	参加者数	リーダー
4月	18日	鈴鹿：鎌ヶ岳	14人	伊藤 純一
	22日	伊吹山地：金糞岳	9人	石井 仁
	29日	奥三河：日本ヶ塚山	5人	栗木 洋明
5月	29日	湖西：リトル比良	21人	市川 義行
	17日	鈴鹿：宮指路岳	14人	伊藤 純一
	23日	飛騨：猪臥山	7人	伊藤 祐幸
6月	30日	鈴鹿：T字尾根～御池岳	6人	石田 伸郎
	10日	阿寺山系：小秀山	8人	鈴木 慎吾
	20日	中ア：経ヶ岳	6人	石田 伸郎
7月	3日～5日	尾瀬：会津駒ヶ岳	10人	天野 俣明
	4日～5日	富士山	荒天のため中止	伊藤 祐幸
	7日	奥美濃：三周ヶ岳	雨天のため中止	石井 仁
	18日～19日	中ア：越百山	雨天のため中止	石井 仁
	23日～27日	北ア：黒部五郎岳～笠ヶ岳	5人	栗木 洋明
8月	25日	中ア：空木岳	応募者少なく中止	石田 伸郎
	10日	両白山地：三ノ峰	8人	鈴木 慎吾
	12日	奥美濃：冠山～金草岳	6人	石井 仁
9月	5日～6日	中ア：西駒ヶ岳～木曾駒ヶ岳	4人	石田 伸郎
	9日	奥美濃：三周ヶ岳	応募者少なく中止	石井 仁
	19日～22日	北ア：五竜岳～鹿島槍ヶ岳	10人	市川 義行
	30日	鈴鹿：日本コバ	9人	石井 仁
10月	7日	諏訪：鉢盛山	7人	石井 仁
	17日～18日	御坂山塊：十二ヶ岳・足和田山	10人	市川 義行
	24日	奥越：刈込池	応募者少なく中止	栗木 洋明
11月	28日	松本：天狗岩	6人	石井 仁
	1日	奥美濃：蠅帽子峠	3人	西山 秀夫
	4日	奥越：平家岳	5人	石井 仁
	6日～7日	大台：日出ヶ岳	5人	伊藤 祐幸
	7日	鈴鹿：仙ヶ岳	15人	伊藤 純一
12月	14日	鈴鹿：イブネ・クラシ	雨天のため中止	鈴木 慎吾
	15日	木曾山脈：恵那山	雨天のため中止	小川 務
	2日	東三河：本宮山	9人	石井 仁
	6日	湖東：奥島山	17人	伊藤 祐幸
	19日	奥三河：平山明神山	9人	鈴木 慎吾
1月	4日	天子山塊：長者ヶ岳・竜ヶ岳	応募者少なく中止	栗木 洋明
	27日	焼津：高草山・満観峰	5人	石井 仁
	29日	高見山地：高見山	雨天のため中止	鈴木 慎吾
2月	30日	湖北：虎御前山	雨天のため中止	伊藤 祐幸
	10日	高見山地：三峰山	7人	石井 仁
	13日～24日	八ヶ岳：硫黄岳	雨天のため中止	栗木 洋明
	21日～22日	伊豆：天城山	10人	市川 義行
	27日	飛騨：漆洞山	7人	伊藤 祐幸



3月	9日	野坂山地：武奈ヶ岳～三重嶽		石井 仁
	12日	松坂：伊勢山上		石田 伸郎
	18日～20日	北ア：アカンダナ山・焼岳		和田 豊司
	26日～27日	八ヶ岳：西天狗岳		栗木 洋明
	26日	鈴鹿：野登山・仙ヶ岳		伊藤 純一

延参加者数 257 人

平均参加者数 8.6 人 実施率 71.4%

(山行委員会委員長 鈴木慎吾)

### 【登山教室委員会】

● 4月から下記のように新年度登山教室講座が始まります！

各講座とも現在受講生募集中！！

● 前期(4月～9月)登山教室現地学習山行

中日文化センター(第2水曜日)	
4月13日	鈴鹿：霊仙山
5月11日	奥三河：宇連山
6月8日	野坂山地：蝶螺ヶ岳～西方ヶ岳
7月13日	尾張の山：猿投山
8月10日	奥美濃：大日ヶ岳
9月13日～ 14日	南ア：仙丈ヶ岳(1泊)(百名山)

中日文化センター(第3土曜日)	
4月16日	鈴鹿：鎌ヶ岳
5月28日	鈴鹿：青岳～ハライド
6月18日	伊吹山地：伊吹山(百名山)
7月16日	尾張の山：猿投山
8月20日	南ア：尾高山
9月10日	奥越：荒島岳(百名山)

朝日カルチャーセンター(第3日曜日)	
4月17日	鈴鹿：ブナ清水～国見岳
5月15日	鈴鹿：宮指路岳
6月19日	木曾山地：大川入山
7月10日	野坂山地：岩籠山
8月21日	北ア：乗鞍岳(百名山)
9月11日	奥美濃：大日ヶ岳

NHK文化センター(第2日曜日)	
4月10日	犬山：鳩吹山
5月8日	鈴鹿：入道ヶ岳
6月12日	尾張の山：猿投山
7月10日	木曾山地：富士見台
8月21日	北ア：乗鞍岳(百名山)
9月11日	鈴鹿：鎌ヶ岳

● 中日登山教室山行参加者募集

中日登山教室(第2水曜日)では、バスの座席に余裕のある時には、支部員・支部友会員の方の現地学習山行参加を募集しています。

ご希望の方は、会員番号、氏名、性別、生年月日(年齢)、電話番号、携帯番号、加入保険、メールアドレスを記入して、下記宛メールで申し込んで登録してください。

申込先：鈴木 慎吾

携帯電話 090-3458-9973

メール [willkun23@gmail.com](mailto:willkun23@gmail.com)

(登山教室委員会委員長 天野倅明)

## お知らせ!!

### 支部友会ミーティング オープン講演会 中世古直子トークショー

期日 2016年4月13日(水)

時間 午後7時～8時半

場所 東海支部ルーム

女性初めての8,000m峰(マナスル)登頂者の中世古直子さんに厳しく山と対峙していた若き日々を語ってまいります。オープン講演会ですので、多数の支部関係各位のご参加をお待ちします。

聞き手：柴田清康 副支部長

# 会 務 報 告

## 【2015年11月常務委員会】

日時：11月25日(水)19時00分～21時00分

### 1. 支部長挨拶(小川委員長)

東海支部にとって今年は悲しい出来事が2件発生した。1件は五竜遠見の池田支部員の遭難事故で、もう1件は荒島岳での大島支部員の遭難事故であった。今後このような事故を起こさないために、技術向上委員会を立ち上げてリーダー層を厚くすることとした。新任の技術向上委員会の委員長には片岡氏、担当を副支部長山田氏として発足することにした旨報告と同時に片岡氏の経歴を紹介。

2. 片岡新委員長より挨拶と今後の抱負が、また山田副支部長から委員会設立に至る経緯の説明がなされた。片岡氏を委員長とし副委員長に山田副支部長、委員に高橋、天野、鈴木、梶浦、石田、藤寄、今津として、毎月第4木曜日に行くこととした。主な目的は危険予知能力と、アクシデントに対する対応能力を身につける事を中心に活動を行う旨発表。

3. 三重県警の小古氏から、鈴鹿山系での山岳遭難事故が多発している点についてお願いの申し出があった。三重県内では今年52件の遭難事故が発生しており遭難者は62名に達している。御在所周辺での遭難件数は去年を上回った。登山者に対する①早出出発、安全ルートを選択、②照明具・防寒具の携行、③登山届の提出、④地図コンパスを持っていく、等の要望を記載したチラシを愛知県内への配布にあたって協力依頼あり、登山教室並びに登山用具店への配布に協力することとなった。

4. アコンカグア登山隊(毛利)登山計画は一般登山ルートでの登攀であることが判明したため、チャレンジ基金の利用は取り止めとした。但し若い支部員の活動であるので支部としても何らかの形で応援をしたいと考えているとの旨の報告。

5. 遠見尾根遭難事故の捜索活動に対する保険請求(山田)－東海支部から8回45人捜索活動に出動費用の請求をしたが、宿泊費、交通費、食費の支払いを受けた。東海支部、亀の会より1万円程の寄付金もあり、差額の不足金が出た額は池田さんへ請求をする旨の報告。荒島岳の捜索費用は6回分で、当費用は遭難した登山隊に請求する旨の報告があった。

### 6. 委員会報告

① 支部友委員会(浜島)：10月の山行3山は無事終了との事。11月は4山の計画。そのうち冠山は4名のキャンセルが出て中止。12月の山行予定について、姫越山、屏風山は計画通りとの事。支部友の手作り忘年会・新入会員歓迎会は12月9日19時より支部ルームにて開催の予定との事。猿投の森の音楽祭には今年から支部友会としてリース作りと猿投登山に参加した。11月現在会員は54名。

② 山行委員会(鈴木)：活動内容は資料配布の通り。特にリーダー会議を来年3月18日に支部ルームで開催するので参加をお願いしたい。現在のリーダーは山行委員会の委員が3分の2程、兼務しておりそれ以外の人にもお願いをしたいとのこと。

③ 猿投の森づくり(和田氏欠席の為毛利説明)：活動内容は資料配布参照されたし。補足説明-12月5日晚餐会の時に猿投の森づくりの会のパネル表示を予定しているとのこと。

④ 東海ユース(山田)：実施済の定例山行、個人山行は配布の通り。山行計画について12月20日の鈴鹿・青川のレスキュー訓練について現在のところ15名の参加。アブザイル、支点の取り方、吊り上げなど怪我人を想定した救助訓練をする。現在ユースへの入会希望者は新たに10名いる旨報告。

その他の報告として11月19日に三重岳連による山の医療と救助講習会を実施、11月29日には三重岳連のプロガイドによる救助訓練講習会が予定されており現在3名が参加予定。

⑤ 会計報告(市川)：新しい会員の入会は順調良く入っているとの事。年度途中入会者の年会費は本部では月割計算に変わったので東海支部としても4ヶ月単位での割掛け、ないしは1ヶ月単位の月割り請求に変更してはどうかとの提案－承認。

⑥ 岳連(市川)：岳連の冬山遭難対策会議が12月17日19時30分からスポーツ会館にて開催予定。

11月27日(金)第19回遭難を考える会が開催されるとの事。講師は村越 真氏。静岡大学教授でスポーツ心理学の研究者であり、日本のオリエンテーリングの第一人者。テーマは山岳遭難のリスクを考える－興味のある方は参加を。

⑦ 支部報編集委員会(星)：原稿は9割程提出戴いており、残りは今週中に集まる見込みになっている旨報告。内容についてはアコンカグア(カナダ)の登山計画等盛り沢山の内容で作ることができた旨報告。

⑧ インドヒマラヤ出版委員会(星)：束見本まで出来てきた。発行部数は1000部、杉田さんの絵入りで写真なども多い内容で作成、1冊6000円(ナカニシ屋出版)で販売することになった旨報告。

⑨ 青年部(藤寄)：10月は25山行の実施、11月の山行計画は8山行を予定している旨報告。12月19日～20日は学生と一緒に雪上での合同訓練を実施予定。1月9日は八ヶ岳で合同合宿を予定。アコンカグアの計画は2月に4名で計画中和のこと。アコンカグアとワディントンの遠征の壮行会については1月の新年会で予定している。

⑩ 登山教室(山田)：配布された資料をもとに、中日と朝日の山行実施及び予定を報告。NHKは休講中。山ガール、山ボーイも休講中。この期間に指導員のレベルアップと指導員を増やしてゆく為の研修を行う予定である旨報告。指導員報告会を年間2回から4回に増やす予定とのこと。第一回目は3月に実施。又、中日文化センターに対し土日開催の新講座開設を呼びかけ中との事。

来年度は講座が2講座に減少する可能性大。そのため登山教室関係の収入半減の可能性あることを踏まえて予算を立ててほしい旨依頼。

⑪ 自然保護委員会(南川)：第1回猿投山周辺の自然観察調査を11月12日に実施した。テーマは樹木の植生と水質調査。清掃活動もしながら標識の整備確認を行った。第2回猿投山自然観察・調査山行は12月17日に予定。

第19回森の勉強会は10月24日・26日に京都嵐山にて「嵐山の景観はいかにして守られているか」のテーマで実施。参加25名。

⑫ ボランティア委員会(前田)：親子ふれあい登山教室を鈴鹿山系尾高山にて2回に分けて開催。第一回目は10月17日に幼稚園の親子50組100名を対象に幼稚園スタッフ10名と東海支部13名の総勢123名で実施。第二回は10月31日に同44組88名を対象に幼稚園スタッフ8名と東海支部14名で実施。両日とも天気に恵まれ無事終了。秋のブラインド登山は11月3日美濃釜ヶ谷山を総勢45名で実施。支援者も増える中、晴天に恵まれ無事終了。六つ星

山の会との合同雪山ブラインド登山は2016年2月6日・7日に六つ星山の会を主体になって富士見台高原へロープウェイを使って予定との事。

⑬ 写真展実行委員会(井上)：第15回東海岳人写真展2016年3月15日から20日迄実施。作品募集期間は2015年11月15日から2016年1月15日迄行う。現在の応募状況は47組64点。目標は80点としてさらに働きかけをして行きたいとの事。

⑭ デジタル委員会(井上)：今回の資料提出は無いとの事。12月1日に委員会を開催の予定。

⑮ 総務委員会(毛利)1月16日の新年懇親会の出欠のはがきを一両日中に発送、12月10日が出欠の締め切りになっている旨報告。

出席者：小川、柴田、山田、中世古、毛利、市川、尾上、鈴木、浜島、星、藤寄、南川、前田、野呂、箕浦、井上、片岡、ゲスト：三重県警・小古巡査部長(支部員)

#### 【2015年12月常務委員会】

日時：12月24日(木)19時00分～19時40分

1. 支部長挨拶(小川委員長)12月5日開催された支部長会議で話し合われた会員制度につき経過報告。

2. 支部長会議での会務報告(毛利)：配布された資料に基づき、ネパール大地震救援募金集計状況ならびに平成28年度の支部助成金及び新入会員報奨金につき報告。

3. 委員会報告

①支部友委員会：オープン講演会(尾上)：2月10日(水)開催予定の「小説氷壁とナイロンザイル事件」と題した講演会の資料配布と案内。

②山行委員会(鈴木)：配布された12月期議事録をもとに活動および議論された内容の説明。

③登山教室委員会(天野)：配布された資料をもとに山行状況、各教室の状況、指導員研修山行につき報告。4月から中日にて土曜日開催の登山教室が開講される見通しとなった旨報告あり。

④猿投の森づくり(坂井)：配布された資料を基に活動内容の報告。平成27年度の定例・臨時作業の参加人員は昨年に比べ作業日数が減ったにも拘らず1320名と昨年の1270名より50名増えた旨報告。また、炭の窯だしと食事会を1月12日に予定しているので支部の方歓迎するので参加をお願いしたいとのこと。

⑤東海ユース(山田)：配布された活動報告をもとに定例・個人山行の報告。会員は3名増加し

た旨報告。

⑥青年部(藤寄)：11月はクライミング中心に36の山行実施。12月19日・20日は雪上訓練実施。1月は八ヶ岳で雪上訓練の予定。

⑦ボランティア委員会(前田)：12月には知覚障がい者支援登山を少人数にて実施した旨報告、2月6日・7日には六つ星山の会と協同でのブラインド登山を予定している旨報告。

⑧写真展実行委員会(井上)：配布された資料を基に第15回東海岳人写真展の出品申込・応募勧誘活動の状況および写真撮影山行の予定と参加申込状況について報告。

⑨デジタルメディア委員会(井上)：配布された資料をもとに 1)メールによる登山届の提出状況、 2)メールによる情報発信用メールアドレスの収集状況について報告。

⑩技術向上委員会(山田)：12月の議事録をもとに、4月からの正式活動開始に向けての準備状況並びに今後の予定を説明。

出席者：小川、山田、毛利、市川、尾上、坂井、鈴木、藤寄、前田、野呂、箕浦、井上

欠席：佐野、和田、柴田、高橋、中世古、加藤、星、南川、片岡

#### 【2016年1月常務委員会】

日時：1月27日(水)19時00分～21時00分

1. 支部長挨拶(小川委員長)3月には第15回東海岳人写真展が開催されますので大勢の来場者になるよう皆さんのご協力をお願いします、との依頼・挨拶。

2. 委員会報告

①支部友委員会(酒井)：12月は2山、1月は1山(計画は3山)の山行を実施した旨報告。12月開催の手づくり忘年会には33名参加(内12名新人)し楽しく開催出来た旨報告。4月1日発行の支部報に平成28年度の山行計画を掲載する予定である旨報告。

オープン講演会「ナイロンザイル事件」は会場をOMCビル4階講堂に変更して開催する旨報告があった。また尾上委員長より会場にナイロンザイルミニ切断装置の実験など各種展示を準備、また石岡あづみ氏も来場予定であるので各委員会の皆さんに参加を呼び掛けて欲しい旨依頼あり。

②山行委員会(鈴木)：配布された資料に基づきHP掲載月例山行実施状況ならびに今後の山行予定につき報告。またリーダー会議を3月18日に開催予定であること、山行リーダーに3名新たに加わってもらう事となった旨報告。

③亀の会(加藤)：配布された資料に基づき山行報告ならびに2月～5月の山行計画につき説明。H27年度は山行担当を3人増やしたが今後も広げていきたい旨報告。

④猿投の森づくりの会(和田)：配布された資料に基づき活動ならびに今後の予定について報告。わいがや講座が活発になってきており、4月には旧支部員の田辺さんに講師を招き「猿投の地形」について講座を開く予定である旨報告。また4月2日に観桜会開催を予定しているが、その時に会員・支部員による『ミニコンサート』を開くことを検討している旨報告。

⑤支部報編集委員会(星)：配布された資料に基づき第145号の原稿依頼者・内容につき説明あり。

⑥登山教室委員会(天野)：配布された資料に基づき山行状況・山行計画及び教室動向について報告。今期途中からNHKがなくなり中日と朝日のみとなり今期の支部への入金は減となる旨報告。来期は中日での土曜開催の講座及びNHKの講座の生徒を募集するので講座の数が増えるかもしれない。朝日登山教室は旅行法順守の観点から現状の東海支部によるバス登山の運営から、旅行者の免許のある業者による運営に変更依頼が出てくるかもしれない。その場合はNHK登山教室と同様バス代が高額となり生徒数確保が難しくなることが予想される旨報告があった。

⑦図書委員会(石田)：「インドヒマラヤ」が蔵書に組み入れられた旨報告。

高橋副支部長より東海支部の所蔵している書籍のなかに挑戦しようとする山に関するものが少ないのもう少し所蔵図書の中身を充実出来ないかとの質問。これに対し予算の許す範囲内でご要望の書籍を購入する方向で検討したい旨返答あり。

⑧ボランティア委員会(前田)：六つ星山の会と協同で雪山ブラインド登山を行った旨報告(支部から10名参加)。SON登山については3月1日に福祉バスの抽選結果を踏まえ開催日決定の予定である旨報告。

⑨技術向上委員会(片岡)：安全登山につながる技術向上を図ることを主眼とし、4月からの本格活動開始に向け準備中。本部にても技術向上委員会が立ちあがったので本部との連携も必要になるかも知れない旨報告。

⑩海外登山(高橋)：アコンカグア登山隊は現地での活動日数確保のため出発を前倒すること

としたこと。隊員たちに出発前のトレーニングを徹底させるためメニューを与え十分な訓練をしたうえで出発できるよう努力中である旨報告。高所順応訓練体験は好日山荘の低酸素室を利用して済ませたとのこと。

⑩写真展実行委員会(井上)：66人92点の応募があった。メ切日を過ぎたが応募されたい方は急いで提出してほしい。カナダの山田さんからも1,2点送って貰う。支部長、本部会長の挨拶文のパネルを作る。ポストカードは沢山あるので、配布をお願いしたい旨の報告。

⑪青年部(高橋)：八ヶ岳にて20人参加し冬山訓練を開催するも、指導役の青年部の参加が少なかった旨報告あり。

⑫遭難対策委員会(野呂・高橋)：2月6～7日に、三重県主催で御池岳で遭難訓練があるので山行委員会、登山教室、青年部のメンバーに参加を呼び掛けている旨報告。

⑬総務委員会(毛利)：各委員会のH27年度事業報告並びに28年度事業予定を3月の定例常務委員会(23日)までに提出をお願いしたい旨依頼あり。

出席者：小川、柴田、佐野、高橋、尾上、中世古、野呂、鈴木、天野、加藤、石田、星、前田、井上、片岡、酒井、毛利

欠席：山田、市川、南川、箕浦、藤寄

#### 【2016年2月常務委員会】

日時：2月24日(水)19時00分～21時00分

1. 支部長挨拶(小川委員長)

①野呂監事が起こした事故報告を後ほど山田副支部長からお願いしたい。

②「平成28年度特別事業補助金募集」について、配布された資料に基づき対象事業・補助金額などの説明があり各委員会で検討してほしいとの事。

2. 報告

①支部員事故報告(山田)

2月7日に野呂監事のコグルミ谷での事故について、配布された資料に基づき、事故の状況・対応・経過など報告。事故防止の為原因と事故再発防止は正副支部長で詰めることとなった。

3. 委員会報告

①会計(市川)：3月の常務委員会に、27年度の委員会費の収支報告書など事務手続き並びに28年度の委員会費の予算申請の提出を依頼。

②支部友委員会(酒井)：2/10のオープン講演会は盛況だった、また石岡氏展示のミニ実験装置は好評だった旨報告。配布された資料に基づ

き2月に2山の山行実施、3月は2山の予定、支部友ミーティングの曜日変更の可能性がある旨報告。4月13日のオープン講演会の案内があった。現在55名の会員。

③山行委員会(鈴木)：配布された資料の基づき報告、山行HPに掲載する山行は《山行実施日の半年前から》を目安に行う。リーダー会議を3月18日に実施予定。

④亀の会(加藤)：2/25に京都の「愛宕山」へ定例山行、3/10に干支の山「庚申山」の自主山行を予定。

⑤猿投の森づくりの会(和田)：配布された資料に基づき活動報告、山桜フィールドで炭づくりをやっている、またここへの新しい道づくりをしている。東大演習林長の蔵治先生の送別会が3/21にせと蔵である、よろしければ出席を。4月2日の観桜会にミニ音楽会を予定、山田弘さん(サクソフォン)並びに他の方の演奏を計画。ボランティア委員会との共催、是非参加を。

⑥東海ユース(山田)：配布された資料をもとに山行報告と山行計画を報告。冬になり個人山行が減った。

⑦支部報編集委員会(星)：配布された資料に基づき第145号の原稿受領状況報告。

⑧青年部(藤寄)：配布された資料に基づき、1月の山行報告と2月の山行計画報告。また入山、下山報告は青年部のLINEで報告し計画書提出を必須とし計画書の様式を決めGmailでの提出を行う予定。春合宿は4/29～5/1に計画と報告。

⑨登山教室委員会(天野)：配布された資料をもとに基づき山行及び教室動向報告。4月からは中日土曜講座、NHKが加わり4講座開講をめざし生徒募集中。なお朝日カルチャーセンターについては、旅行業法の問題がありバス代が8000円程度に値上げが必要な状況である旨報告。

⑩自然保護委員会(南川欠席のため山田)：配布された資料に基づき2015年度の活動報告と2016年度行事予定などを報告。他に「猿投山観察調査報告」がされ、動物調査は今後も継続予定とのこと。

⑪ボランティア委員会(前田)：配布された資料に基づき活動報告。2/6～7の六つ星山の会との合同雪山ブライント登山は非常に有意義であった旨報告。4/23～24にSON愛知・知的障がい者支援登山「鈴鹿」、5/29に春のブライント登山「池田山」を予定との報告。

⑫海外登山委員会(高橋)：アコンカグア隊は、

2/20 に先発隊、2/27 に後発隊が出発し、ベースキャンプで合流予定。東海支部カナダ・ワディントン山群隊には、本部からの海外登山助成金が承認された旨報告。

⑬写真展実行委員会(井上):配布された資料を基づき、多くの応募があった、中でも新規の応募者が増加した。

⑭総務委員会(毛利)

\*来年度のルームカレンダー、委員会開催日について、変更・修正などあれば3月5日までに連絡をお願いしたい。

⑮遭難対策委員会(高橋):池田支部員遠見尾根遭難の東海支部による捜索活動事費用の内保険でカバーされたかった分については、遺族に負担をお願いしており、息子さんから基本的に同意の返事を貰っている旨報告。

出席者:小川、柴田、山田、高橋、佐野、尾上、鈴木、星、前田、井上、佐野、加藤、石田、酒井、毛利、市川、天野、箕浦、藤寄

欠席:中世古、南川、野呂、片岡

総務委員会 毛利邦男 記

## ル ーム 日 誌

- 1 2月
- 1日(火) 県岳連
  - 2日(水) 青年部/TNCC(同好会)
  - 3日(木) 写真展委員会・支部報編集会議
  - 4日(金) 古道塩の道
  - 7日(月) 支部友委員会
  - 9日(水) 支部友ミーティング
  - 10日(木) 自然保護委員会
  - 11日(金) 山行委員会
  - 14日(月) 登山教室委員会
  - 15日(火) ボランティア委員会
  - 16日(水) 山行委員会/総務委員会
  - 17日(木) 東海学生山岳連盟

- 21日(月) 図書委員会
- 22日(火) 猿投の森運営委員会
- 23日(水) 東海ユース
- 24日(木) 常務委員会/支部報発送作業

- 1月
- 5日(火) 県岳連
  - 6日(水) 青年部/TNCC(同好会)
  - 7日(木) 写真展委員会
  - 12日(火) 登山教室委員会
  - 14日(木) 自然保護委員会
  - 16日(土) 支部新年会
  - 17日(日) 東海ユース
  - 18日(月) 図書委員会
  - 19日(火) ボランティア委員会

- 2月
- 1日(月) 支部友委員会
  - 2日(火) 県岳連
  - 3日(水) 青年部/TNCC(同好会)
  - 4日(木) 写真展委員会
  - 5日(金) 古道塩の道
  - 8日(月) 登山教室委員会
  - 9日(火) 登山教室
  - 10日(水) オープン講演会
  - 12日(金) 自然保護委員会
  - 15日(月) 図書委員会
  - 16日(火) ボランティア委員会
  - 17日(水) 山行委員会/総務委員会
  - 18日(木) 東海学生山岳連盟
  - 23日(火) 猿投の森運営委員会
  - 24日(水) 常務委員会
  - 25日(木) 技術向上委員会
  - 29日(月) 登山教室

## 会員異動

入会:高松信治(15871) 浅野将人(15885)

退会:なし

# I N F O R M A T I O N

### 【総務委員会からのお知らせ】

#### 【平成28年度支部総会・懇親会のお知らせ】

支部総会を下記日時に開催します。支部員皆様の参加を賜りますようお願い致します。

本年度は来賓として日本山岳会本部より小林政志会長をお迎えする予定となっています。

期 日:平成28年5月21日(土)

時 間:支部総会 午後5時~6時

懇親会 総会終了後

場 所:上前津高砂殿4F

名古屋市中区富士見町10番27号

(支部ルーム南隣)

懇親会も高砂殿にて開催します。

会 費:懇親会参加者2,500円程度

\*同封した返信用ハガキに総会・懇親会への出欠を記入の上、速やかにご返送ください。

尚、総会欠席の方は委任状のご提出も併せてお願い致します。 総務委員会 毛利邦男

### 【第4回夏山フェスタ開催のお知らせ】

第4回夏山フェスタが下記要領にて開催され、東海支部も全面的にバックアップしています。

日 時：6月11日(土)～12日(日)

11日・午前10時～午後6時30分

12日・午前 9時～午後5時

場 所：愛知県産業労働センター  
ウインクあいち 7F・8F

主 催：夏山フェスタ実行委員会

事務局：中部経済新聞社 事業部

イベントの内容：

①山に関する各種セミナー、著名人の講演会  
(田中陽希さん、小林千穂さん、角谷道弘さんら内定)

②登山用品メーカー、関連団体、自治体などによるブース出展

③山小屋・山岳関連団体などによる相談コーナー(東海支部も相談コーナーを受け持つ予定)

④山岳写真展など

詳細は、別紙チラシをご覧ください。支部以外にもPRをお願いします。

夏山フェスタ実行委員会 毛利邦男

### 【写真展実行委員会からのお知らせ】

#### 4月 西穂

・月日：4月24日(日)～25日(月)1泊2日

・目的地：西穂独標

(西穂山頂までは行きません)

・宿泊：西穂山荘

・移動方法：公共交通機関

・撮影対象：雪の穂高連峰

・募集定員：6名くらい

・服装装備：冬山の服装、装備(アイゼン、ピッケル)

・申込締切：4月15日

#### 5月 馬場島

・日時：5月15日(日)～16日(月)

または22日(日)～23日(月)

・目的地：富山県中新川郡上市町馬場島

・交通手段：公共交通機関

名古屋～富山駅前

(名鉄バス、往復7,410円、約3時間40分)

往 7:10～10:47 / 8:40～12:17

復 14:50～18:30 / 16:20～20:00

富山駅前～馬場島荘(9人乗りジャンボタクシー、片道18,800円、約1時間10分)

・宿泊：馬場島荘(1泊2食、8,000円)

昨年の価格です

・撮影目標

①「劔の大王杉」(樹高約20m、幹回り約2m、馬場島荘から徒歩約50分)

② 中山(標高1,255m登り約2時間、下り約1時間40分)から見る早月尾根と劔岳他

(山荘のご主人談：今年は積雪量少なく、ピッケル、アイゼンは不要の見込み)、無積雪期は家族登山で人気の山。新緑の季節で、運がよければ山桜もみられる。雪山の静けさの中で、各地の撮影を開催します。ご一緒に撮影しませんか。撮影せず、冬山を楽しみたい方も歓迎します。是非ご参加ください。お待ちしております。

写真展実行委員会 井上寛之

### 【ボランティア委員会からのお知らせ】

◇第16回知的障がい者支援登山のお知らせ◇  
今年もアスリートと一緒にキャンプファイヤーや登山を行います。24日には、初心者向けの日帰り登山コースも新設しました。

日 時：4月23日(土)～24日(日)

23日・朝明茶屋 午後1時30分～

火起こし体験・夕食作りなど

24日・午前 6時～

朝食作り後、中峠～水晶岳～根の平峠の予定

\*日帰り登山のコースは8時30分集合し千種登山口から根の平峠往復の予定

何れも16時現地解散の予定

問合せはボランティア委員まで

◇第14回ブラインド登山のお知らせ◇

山行日：5月29日(日)

山 名：岐阜県池田町 池田山(923.9m)

集 合：JR金山駅切符売り場付近 7時45分

行 程：8時 金山市民会館南～高速道～池田温泉道の駅(駐車)登山往復 約6時間

参加費：1,200円

問合せは、山田 弘会員およびボランティア委員まで ボランティア委員会 前田隆久

### 編集後記

若い支部員の活躍を伝えるためページ数が増えている。編集子の作業意欲も増しているが、すこぶる気分が良い。今後の青年部諸君の活躍ぶりを楽しみにしている。 星 一男

海外トレッキングのパイオニア!

世界の山旅を手がけて46年  
ALPINE ツアー サービス 株式会社

“山仲間オリジナルツアーを企画しませんか?”  
説明会にお伺いします。お気軽にご相談下さい

名古屋 052-581-3211    
〒450-0002 名古屋市中村区名駅3-23-2 (第3千福ビル3階) [www.alpine-tour.com](http://www.alpine-tour.com)



ハイキングから本格的な高峰登山までお気軽にお問い合わせ下さい。  
観光庁長官登録旅行業第1167号 / (社) 日本旅行業協会正会員

株式会社アトラストレック

名古屋サービスデスク TEL: 052-788-2422  
(東京本社転送電話)

【東京本社】〒180-0008 東京都新宿区三栄町25番地 三栄ハウス202  
TEL: 03-3341-0030 FAX: 03-3341-9200 E-Mail: info@atlastrek.co.jp  
ホームページ <http://www.atlastrek.co.jp/>

SINCE 1975  
mont-bell

ウェア・ギアに  
遊び心もそろえて  
お待ちしております!

アウトドア用品は、  
機能的なアイテムが豊富にそろう  
「モンベルストア」へ。



- 名古屋店 **Outlet** 愛知県名古屋市中区栄3-18-1  
ナディアパークロフト 6階
- 長久手店 **Outlet** 愛知県長久手市片平1-901
- 名古屋みなと店 **Outlet** 愛知県名古屋港区品川町2-1-6  
イオンモール名古屋みなと3階
- 各務原店 岐阜県各務原市那加萱場町3-8  
イオンモール各務原 2階
- 長島店 **Outlet** 三重県桑名市長島町浦安368  
三井アウトレットパークジャズドリーム長島 2階
- 鈴鹿店 三重県鈴鹿市庄野羽山4-1-2  
イオンモール鈴鹿 1階
- 新静岡店 静岡県静岡市葵区鷹匠1丁目1-1  
新静岡セノバ 4階

**Outlet** アイコンのある店舗では、ファクトリーアウトレット商品も取り扱っています。

モンベル・カスタマー・サービス  
☎0088-22-0031 / TEL.06-6536-5740 [www.montbell.jp](http://www.montbell.jp)  
※フリーコールは携帯・IP電話からご利用いただけません。

建設業許可を取りたい、日本国籍を取得したい(帰化)、遺言を公正証書で作成したい、戸籍謄本や除籍謄本を代行取得して欲しい、任意成年後見の相談をしたい、会計記帳を頼みたい等々

ご相談は行政書士の西山秀夫へ

〒460-0002名古屋市中区丸の内3丁目21番21号  
(地下鉄・久屋大通駅から徒歩から2分) 丸の内東桜ビル1004号室

TEL: 090-4857-9130

URL: <http://www.nygs-office.com/>

企画・デザイン・印刷



株式会社 浅井隆文社

〒453-0801 名古屋市中村区太閤四丁目8番3号  
TEL (052) 451-6656 FAX (052) 451-6657  
E-mail: ta@asai-rbs.co.jp

◆◆◆◆◆ OMC ◆◆◆◆◆

住いのコンサルタント

(有) 富士見企画

〒460-0014  
名古屋市中区富士見町8番8号

◆◆◆◆◆



一般社団法人 日本自動車運行管理協会  
一般社団法人 中部地区自動車管理業協会

- ・一般貸切旅客事業
- ・車両運行管理事業
- ・愛知県知事登録旅行業
- ・労働者派遣業
- ・ビル清掃管理事業
- ・介護支援事業

〒465-0021 名古屋市長東区猪子石3丁目113番地  
TEL 052 (779) 8777(代) FAX 052 (779) 0031  
<http://www.work-system.co.jp/>